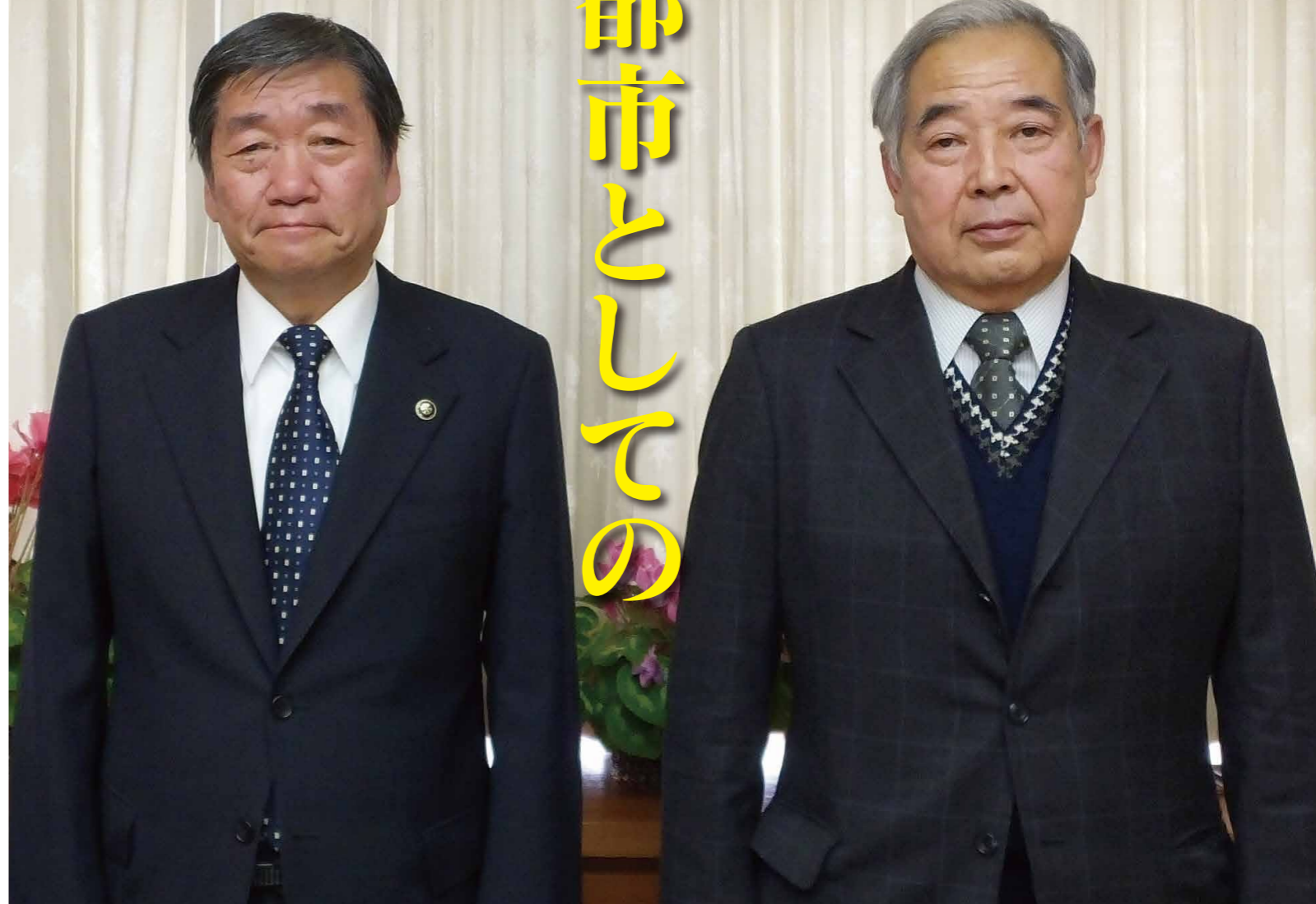


八戸圏域 連携中枢都市としての 取り組み



八戸市長
小林 眞

八戸市立市民病院
病院事業管理者
三浦 一章

八戸地域の中核病院として高度急性期 及び急性期医療機能の中心を担う

川口アナウンサー 八戸市立市民病院では県南地域の中核病院としてどのようなことに取り組んでいらっしゃいますか？

三浦管理者 当院は県南地域の中核病院として、高度・急性期医療の提供を中心に、24時間態勢で住民の生命と健康の保持に努めています。八戸圏域定住自立圏内での医師の派遣や臨床研修医の育成のほか、地域の病院・診療所等との連携を図るなど、地域医療全体のレベルアップに取り組んでいます。

平成9年9月には現在の田向地区に移転新築し、その後、平成11年に臨床研修病院、平成14年に地域医療支援病院、平成17年に地域がん診療連携拠点病院として指定・承認を受けました。平成12年に日本医療機能評価機構の認定病院となった以降、認定を3度更新

し、医療の質の向上に努めています。

また、平成21年3月にドクターヘリ運航開始、翌平成22年3月には定住自立圏事業としてドクターカーの運行を開始しました。現在の年間出動件数はドクターヘリ約500件、ドクターカー約1,500件に上るなど、地域の救急医療の充実に努めるほか、地域災害拠点病院として東日本大震災など大規模災害の被災地へ災害派遣医療チーム等を派遣してきました。

川口アナウンサー 救急の医療体制がこれだけ整っているということは、市民にとっても心強いですね。

小林市長 青森県側と度重なる交渉の末に、平成20年10月ドクターヘリ導入を決定しました。これは福島に次いで東北で

